事例No.	701
公表年度	H30
団体の属性	都道府県
団体名	岐阜県

事例区分	第三セクター

タグ	・社団法人・財団法人 ・公共施設活用 ・教育・子育て

事例種類	地方公共団体の区域を越えた活動

事例内容・タイトル

博物館を利用した人材育成

出典

第三セクター改革等先進事例集

事例名	博物館を活用した人材育成
団体名	岐阜県
法人名	(公財)岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

＜地方公共団体のデータ＞

人口(人)	2,054,349
標準財政規模(百万円)	473,566
財政力指数	0.54366

※人口は、住民基本台帳に基づく人口(平成 30 年 1 月 1 日時点)
標準財政規模及び財政力指数は、平成 29 年度決算の数値

＜法人データ＞ (単位:百万円)

[出資等の状況](平成 30 年 3 月 31 日時点)

岐阜県	5(50%)
各務原市	5(50%)
役職員数(人)	25

[経営状況](平成 29 年度決算)

経常収益	32
経常損益	13
当期純損益	13

資産	31
負債	8
純資産	23

[法人概要](設立目的、業務概要等)

(設立目的)
航空宇宙に関する知識、技術等の普及及び啓発を行うとともに、将来の航空宇宙産業を担う人材を育成し、もって航空宇宙分野の科学技術の振興に寄与する。
(業務概要)
航空宇宙に関する知識や技術の普及啓発やイベントの開催、航空宇宙産業を担う人材の育成を行うとともに、指定管理者として、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の運営管理を行っている。





1. 本事例の概要(取組の内容、ポイント)

岐阜県は、「かかみがはら航空宇宙科学博物館」(平成8年開設、各務原市有施設)を、小中学生を対象とした産業人材の育成拠点、航空宇宙産業の集積地としての情報発信拠点、及び産業観光の拠点施設と位置付け、各務原市と共同でリニューアルに着手した。

リニューアル後、平成30年3月24日にオープンした博物館は、正式名称を「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」、愛称を「空宙博」(そらはく)に改称。展示面積は国内最大級の 9,400 ㎡(従来の 1.7 倍)、展示機体数は国内最多の 43 機となり、航空と宇宙の両方を備えた国内唯一の本格的な専門博物館に生まれ変わった。

県と市は、この博物館を共同で所有し、民間の知見とノウハウを生かして運営を担う財団法人を共同で設立(折半で出資)し、指定管理者として運営管理を担わせている。

2. 取組の背景、理由、着手のきっかけ

岐阜県は、航空宇宙産業の事業所数と従業者数が全国第二位で、中部地域は世界有数の同産業の集積地となっている。この分野は、今後も長期的に市場の拡大が見込まれることから、県では同産業を県経済をけん引する成長産業の筆頭に位置付け、積極的に振興を図ることとし、特に産業界から要望の多い人材の育成確保について、長期にわたって切れ目なく取り組むこととした。

その具体的な取り組みとして、就業者や工業高校生に対しては、教育・研修施設を新たに設けたほか、小中学生に対しては、航空と宇宙に興味や関心を持ってもらい、将来の航空宇宙産業への就業につなげるため、「かかみがはら航空宇宙科学博物館」(各務原市所有)を活用することとし、県もリニューアルに参画することとなった。

リニューアルにあたっては、航空宇宙に関する専門家の意見を踏まえ、平成28年4月に基本構想を策定。リニューアル後の博物館は、県と市が共同で所有し、共同で運営するほか、民間の知見やノウハウを運営に活かすため、財団法人を設立し、同法人が運営管理することを決定した。

3. 取組の具体的内容

(1)取組方針とその決定過程

小中学生が航空宇宙に対する興味や関心を持ち、将来の航空宇宙産業への就業に繋げるため、リニューアル後は中学生以下の入館料を無料化し、来館を促している。

また、特に小学校の校外学習の利用を狙い、県教育委員会や JAXA と連携し、事前学習・当日の見学・事後学習をパッケージにし、新たに作成した専用の教材を使用する教育プログラムを企業版ふるさと納税を活用して開発した。一方、県教育委員会においても、予算を増額し、重点的に小学校の博物館見学を支援している。

さらに、リニューアルにあたり操縦シミュレータを始めとした体験装置を増やしたほか、小中学生を対象とした体験教室やイベントを充実させ、さらには、展示物の解説文は小学5年生までに学習しない漢字には振り仮名を付けるなど、子どもが読めるようにしており、子どもたちが何度も訪れたくなる博物館となるよう、魅力を高めている。





3．取組の具体的内容（つづき）

⑵取組の具体的な進め方

教育プログラムについては、校外学習の場として活用いただくため、学習指導要領に沿って、小学1・2年生、3年生、5年生を対象とし、博物館の展示を活かした学習ができるよう、専用の教材を作成した。

また、リニューアルにあたり、飛行機の飛ぶ仕組みや小惑星探査機「はやぶさ2」のミッション等を楽しく学べる体験装置を充実させたほか、紙飛行機製作や水ロケット製作・発射体験等、従来から人気のあった体験教室を引き続き開催している。また、小中学生を対象とした宇宙飛行士の講演会やISS（国際宇宙ステーション）とのリアルタイム交信なども積極的に開催している。

4．取組の効果

リニューアル後、平成31年2末までの約11か月で来館者数は43．2万人、このうち中学生以下が17．9万人（全体の41%）を占めている。

教育プログラムは63校、3,754人に対し実施し、体験教室は10教室、延べ2,405人が参加した。このような博物館を活用した人材育成の取組みが評価され、2019年1月に地方創生応援税制に係る内閣府地方創生大臣表彰を受賞した。

5．今後の課題（今後の方針、残された課題等）

何度も来たいと思える博物館となるよう、引き続き展示内容や体験教室・イベントを充実させることを通じて、博物館の魅力を高めていく必要がある。

また、教育プログラムについては、現在、小学1・2年生、3年生と5年生を対象とした教材を用意しているが、利用者の声を反映させて内容をブラッシュアップするほか、それ以外の学年や中学生を対象とした教材の作成の必要性を検討する。

＜参考＞地方公共団体の問合わせ先

担当課	航空宇宙産業課	連絡先	058-272-8836